

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071601894		
法人名	有限会社 ハーティー		
事業所名	グループホーム らくらく		
所在地 (電話番号)	久留米市宮の陣町2348-5 (電話) 0942-31-1388		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成19年9月21日	評価確定日	平成19年11月9日

【情報提供票より】(19年8月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)		新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (8月25日現在)

利用者人数	12 名	男性 1 名	女性 11 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 77 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	亀尾医院、田山外科、毛利歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「明日はわが身、誰に対しても感謝の気持ち」を理念に掲げ、気をらくにして笑い、最後の住家として健康に生活していただくこと、ホーム長を始め職員一丸となっている。家族と思ってもらえるような接し方や利用者自らが心を開いてくれるような支援の取り組みに努力をしている。毎日の日誌もありのままを言葉にして詳しく記録している。栄養士の指導によるバランスの取れた食事内容である。ターミナル期の利用者も受け入れ、最期を看取る体制もできており、医療機関との連携も良くとれている。家族の面会時間も入居者の状態を優先し、不穏にならないように時間を決めている。認知症の理解を促進するよう勉強会などで啓発している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>火災訓練は年2回実施していたが、職員のみであったことの改善課題も入居者の方とともに火災訓練を実施し改善できている。また内部外部の研修記録と研修計画作成についても取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義を理解し、質の向上への取り組みを再確認しながら積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回の運営推進会議での意見や、サービスの実際、評価の結果をファイルして玄関に置き、いつでも閲覧できるようにしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>見えやすい場所に苦情相談窓口のポスターを貼り、家族の会の時やそれ以外の時でも、いつでも苦情処理担当者が苦情を受け付け、その都度話し合いを持つように取り組んでいる。毎月家族へお便りに写真を添えて送付し、面会時や電話で密に連絡をとっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議などで得た地域の情報、行事などに積極的に参加することで、地域との交流を深めていく取り組みをしている。地域のお祭りでは「御供納」を見学し、入居者の方々と共にその物語を紙芝居作成するなどして、日常生活に活かしている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明日はわが身、感謝の気持ち」の理念を掲げ、笑顔と思いやりを忘れずに、ご本人の立場に立って、個人の人格を尊重しその人らしく過ごせるように努力している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を念頭において職員全員で取り組んでいる。「もしも自分だったら」と考えての対応を心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の活動や行事に積極的に参加して、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が理解し、評価を活かした質の向上に取り組み、再確認しながら実施している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果はファイルにして、いつでも閲覧できるようにしている。また運営推進会議において評価の報告を行い、メンバーの方々より意見を頂くようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時情報交換を行いながら対応している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	研修を受けた職員が必要に応じて説明、助言などを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回家族へのお便りに写真を添えて送付し、面会時や電話などで暮らしぶりや健康状態の報告を行い、状況によっては密に連絡をとっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口のポスターを貼り、家族の意見や不満・苦情に対応できるよう苦情処理担当者を設けている。意見や苦情に対し、その都度話し合いを行い運営に反映できるよう努力している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員全員が利用者にとって馴染みのある職員となるようユニットに関係なく関わっているため、異動による影響や違和感のない環境づくりに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢で採用対象から排除していない。現場で職員の一人ひとりの特徴を活かせるような職場づくりをしている。職員全員が正規職員、将来的にやりがいのある職場にと前向きな取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	採用時に説明し日頃の関わりによって実践している。外部、内部の研修を行っている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験、実力に応じて研修期間や回数を調整し、自己学習がいつでも出来るような取り組みがある。		研修計画や研修記録の常備が望まれる。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回、他のグループホーム9箇所との合同研修が定例化されている。ネットワークづくりや勉強会行事に参加するなど交流の機会を多く持っており、サービスの質の向上に努力している。		
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況に応じた柔軟な対応に努めている。家族から情報を得て、馴染みのある環境づくりに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、一緒に過ごすことで、喜怒哀楽や達成感を感じる関係づくりに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居者の心を開いてもらうような接し方や、一人ひとりの希望意向の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	日々の関わりの中で、一人ひとりの希望や意向を汲み取り、家族・職員ともに意見を出し合い介護計画を作成している。		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月に1度介護計画の見直しを行っている。また必要に応じて関係者と話し合い、新たな介護計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	柔軟に支援できる体制を整えている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	入居時に本人家族と相談の上、決定している。また、適切な医療が受けられるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に終末期の説明を行い、かかりつけの医師や家族と密に話し合い、方針を全員で共有している。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日々誇りやプライバシーを傷つけないように心がけての対応と、個人情報の取り扱いについては注意を払っている。間違った言葉使いなどがあった場合はその都度注意をしている。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人ひとりのペースを重視し、本人の体調や希望に沿って充実した毎日となるよう支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>買い物、調理、片付けなどは出来る限り職員と一緒にしている。献立なども希望に沿えるようにしている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>一人ひとりに合わせた入浴が楽しめるような支援をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの楽しみや趣味を把握し、職員が教わる形をとることで張り合いや意欲、喜びのある場面づくりに取り組んでいる。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の決定を大切にして、その日の希望に応じて日用品の買い物や近隣の散歩など外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全上、施錠することもあることは家族に同意を得ておりかけるときもあるが、通常は施錠していない。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害対策、避難経路を目に付くところに明示している。また非常災害時の水や食料も準備しており、近所の方や病院などの協力を得られるようお願いしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を常に記録し、一人ひとりの状態に応じて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は飾り物、造花やその月にちなんだポスターなどで季節を感じてもらうなど、居心地良く過ごせるように工夫している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が生活歴を感じられる部屋作りを支援している。馴染みのある家具や布団なども使ってもらい、身体状態にあった工夫をしている。		